

「敬天愛人と仲間たち」

番号	タイトル	執筆者	コメント
1	芸術の果たす役割について	牧野 満徳	「嫉妬と妬み」「油断大敵と冒険心」などの見出しに引き込まれました。中でも「受賞するほど窮地に」の項は意外ながらも納得でした。読了後に続編の表紙を見ると、迫力が違います。
2	中国ラテンチャンピオンから見た日本と中国の違い	劉 英	国同士の関係がぎくしゃくしても、懸け橋になってくれる人の存在は大きいです。「感恩」という言葉も初めて知ることができました。逆境のたびに乗り越えてきた、貴重な記録です。
3	音楽は人生を豊かにする	笠間 千保子	「歌声は永遠に残る」「間違えても消しゴムで消すことはできない」、そして「やりきる力」。琴線に触れるエピソードが満載でした。尾崎の「人生の本舞台」にも通じるものを感じます。
4	ヴァイオリンがあって、私がい	池田 有沙	「コンミス」までの道のり、英語の壁、そして「一音一音」。音楽は流ればかりでなく、一音一音の積み重ねであることを再認識しました。「やってきたことの答え合わせ」にも納得です。
5	「役に立つ美しさ」とは	三好 那奈	「スマイル」そして、お年寄りからの「ありがとう」。「演奏する時の自分の心」というキーワードが印象的でした。ベートーヴェン七代目としての今後の活躍にも注目しています。
6	現実にある「鬼滅の刃」の家族愛	金沢 久幸	本人の努力や頑張りもさることながら、お母様の励ましに読む側も心揺さぶられました。心の中で声援を受けての勝利、きっと一緒にリングの上で戦われたのだなとしみじみ感じました。
7	歌があなたを救う	ソプラノSACHIA.	「健康歌声」、そして四半世紀を経てたどり着いた「思い描いた声」。「たかが歌されど歌」の見出しにも共感を覚えました。歌うこともまた、大事な生命の営みであると感じました。
8	わたしはわたしになるのみ	森 佑季	I will be me.から We will be us.へ。お婆様のメッセージも沁みました。それ以上に響いたのは「自分を生きる」という一言です。シンプルだけど、これほど励まされる言葉はありません。
9	人生は夢の学校	川島 佳子	村松増美先生と同様、尾崎の三女・相馬雪香も会議通訳者の草分けでありました。また下村満子さんも生前の相馬と親しく、このたびの「相馬雪香特別賞」に不思議なご縁を感じます。
10	障害者福祉の裾野から、工芸のもののづくりの頂きをめざして	高森 雄登	枯渇しない、争いとも無縁。「スタジオプレアデス」と「JAPAN TIARA」、ともに可能性を感じます。やがてはそれぞれが伝統になれば、そう願ってやみません。
11	心の億万長者 リレーションシップ成功の法則	竹原 宏子	自分を許し、自分を知る、自分を愛する、そして心の欲求は自分で満たす。シンプルながらも奥深いメッセージです。四つの感情（安定、愛、自己重要感、ワクワク感）にも思わず唸らされました。
12	人の命が輝く愛和力（リレーションシップ）	竹原 義人	今回の選者には、まさに現在進行形で職場うつに苦しむメンバーもおりました。自分自身への愛を疎かにしない、そして四つの愛和力。貴重なアドバイスを記していただき、ありがとうございます。
13	風は囁き 星が歌う 自然の中の ちいさなわたし	鶴戸 あすか	八面六臂の活躍の秘密は「声」と「言葉」にあり。自分の声が嫌いという人はたしかに多いかなと思います。自分の声を愛することも、大きな可能性に繋がりますね。
14	早婚のススメ	宮内 市子	早婚のメリットとデメリットを並べて見ると、いまの日本が抱える課題と解決の糸口が見えそうな気がします。少子化問題に踏み込んだ提言も、なるほどたしかにと唸られました。
15	Madam Norikoの美人道	薬真寺 紀子	老若男女を問わず実践できる「美人道」、目からうろこの思いです。「約束には、守るという覚悟が必要だ」「何時かやる」は絶対にやらないなどの警句も、ぐさりと突き刺さります。
16	業績アップにつながる「ほめ育」	原 邦雄	ほめの由来（＝ほむ）や「ほめシート」の活用法など、ほめるという言葉や行為の奥深さ。何よりも衝撃を受けたのは、カンボジアでの原点でした。日本こそが「ほめ先進国」を目指したいですね。
17	夢の実現	泉二 弘明	誰も歩んだことのない道を切り開くことの大変さ。それだけに「男の着物」も「ブラチナボーイ」も輝きを増すのでしょう。芯をつかんだら情熱を一心に注ぐ、最後のメッセージにも熱くなりました。
18	言葉を得る	花増 顕	「見る」でも「聞く」でもなく「言葉を得る」。本当に得るためには不断の努力が欠かせませんが、宇津木監督からのメッセージ。まさに「著者の努力の賜物」だと感じました。
19	「考えるな 感じろ!」とは?声と意識、感覚で捉える	チャミー スマイル	愛情のこもった言葉には、人を動かす力がある。あるいは思考を止めて不安を手放し五感を意識する、感覚で腑に落とす。エピソードの間にちりばめられた至言の数々に魅了されました。
20	痛快! 銀座おしゃれ大学	ダン コイズミ Founder	人生のテーマソング、サンキューとスマイル、そして「人生はアクションだ」。ヘミングウェイを連想させる歯切れの良い文体で、これまでの轍、そして枯れる事のないアイデアの泉を紹介いただきました。
21	世界一尊敬する父と、ゼロからの公認会計士試験合格	薦田 賢人	亡きお爺様と、苦労を共にされたお父様、そして家族を越えたパートナーの弟さん。苦学経験のある選者は「いちばん、沁みた」とのことでした。5つの目標、どれも叶って欲しいです。
22	人生の金額について	吉田 明弘	「自分の人生の金額」という考え方がとても新鮮でした。生き方をお金とともに考えるきっかけにもなり、また最後の「とうとう伝えることがなく人生を終えてしまいたい」も胸をうちました。
23	西郷隆盛 敬天愛人	内 弘志	ある選者は、南洲翁の享年が現在の自分と同年であったことに衝撃を受けておりました。書籍ではその略年譜を紹介いただくとともに、書籍全体のコンセプトにも通底するものを感じました。
24	渋沢栄一と『論語』	田村 重信	今年もっとも注目された人物でもある近代産業の父・渋沢栄一。生涯を追わずとも、寄稿を熟読するだけでも足跡の片鱗がうかがえます。西郷隆盛とともに、今こそ学びたい偉人です。
25	親孝行と生き方、考え方、直達会について	屋宮 直達	お父様、Kさん、そして一期一会の方々。最後の「大事にしていること」にも唸られました。執筆陣全員の随筆を読み終えて、「この本は、いいな」改めて思いました。良作をありがとうございます。

「続・敬天愛人と仲間たち」

番号	タイトル	執筆者	コメント
1	「声」はあなたを守るもの	成宮 愛	「声はあなたの一生のお守りになる」、そして「声」と向き合うということは、呼吸と向き合うこと。深呼吸し、なるほどと思いました。自分本来の声はどんなものかについても考えさせられました。
2	これからの世界の生き方	立澤 賢一	グローバルな視点での数々の洞察、中でも専門分野における「投資リテラシー」の提言に唸られました。金銭に限らず、自分への投資は怠りたくない。誰もがそう思えます。
3	創業者の遺志を継いで	市川 慎次郎	暗黒時代からの復活、その後におつた史上最大の危機。書ききれないご苦労と思いますが、間違いなく著者は「不撓不屈の精神」でお父様の背中に近づいている。そう確信しています。
4	天国と地獄を見た男の成功哲学	五十嵐 由人	「今世はお前が、家庭のことは顧みず、精一杯働けるように最高の奥さんをつけてやる」いい言葉だなと思いました。そして何より、お母様が人生を振り返っての境地。ここに総てがあります。
5	手あての医療で溢れるセカイを目指して	平島 修	後藤さんとのエピソード、そして「手あて」。奄美のドクターXをここに見た思いがしました。コロナ禍の混沌の中、手あての実践は崇高であり、何よりも広まって欲しいと願います。
6	父と母への恩返し	田中 利幸	お父様の「やさしい嘘」。そしてお母様の覚悟。トリノの老夫婦の言葉も込みました。随筆のむすびを飾る、仲睦まじい2ショットも、「ああ、いい1枚だな」。しみじみ思いました。
7	霊能者として逃れられなかった使命とは？	鈴木 照玉	人生をかけてのつらい修行、そして東久邇宮文化褒賞。選者の一人は「ひげの隊長」を初選挙から支えた人物で、写真に見入るほどでした。旦那様の存在の大きさも活字から伝わってきました。
8	医学書出版ひと筋の道	渡辺 嘉之	医学書ひと筋の道のは、偉大な先駆「解体新書」がわが国で著されたことと重なります。当時同じ苦労があったかも、そしてそのスピリッツが時を超えて、ここにある。そう感じずにはられません。
9	神様から…いただいた宝物	星乃 金太郎	にこやかな陰にも、数多くの苦難やドラマあり。そして「仁」。随筆のラストを飾る「青春の歌」にも唸られました。「理想を失う時に初めて老いる」肝に銘じたい一言です。
10	安岡正篤先生「人間学」と私	小貫 泰志	安岡正篤師の六中観、そして「縁尋機妙 多逢聖因」。南洲翁の存在は、安岡師にも大きな影響を与えていると気づきを与えていただきました。結びを飾る「ほほねこ」にもほっこりします。
11	日本一尖った放送局を目指す	高橋 英樹	九十九里の経験と奥様の存在が後押しして誕生した、身近なFM局。防災士の方々との相性も良いかなと思いました。日本一を超えて、やがては世界一尖ったFM局へ。そんな期待が膨らみます。
12	セロトニンを味方につける	香田 衣里	様々な種類のホルモンと、誰もが知らないうちに抱えるストレス。日ごろホルモンの存在までは考える機会がなく、改めて勉強になりました。幸せホルモン、セロトニン。ぜひ味方につけたいです。
13	ずーっと欲しかった ありがとう	永棹 みき	人生3冊の本のうちの、第一歩となる1冊目。そして「私を変えてくれた言葉」の数々。義理のお母様（不義理よりは、ずっといい！）のメッセージには、嬉しくもほろりとなりました。
14	安田宝英の島唄人生	安田 末子	半世紀を超える民謡教室。その長年の歴史の中でも『喜界やよい島』が書籍を通じて語り継がれることの妙味を感じます。俊寛僧にも想いを馳せ『喜界や、よい島』なのだとしみじみ思いました。
15	土星に恋した私	山崎 大地	飛行士ばかりが目ざされがちな宇宙開発において、ステーション建設というエンジニアリングの分野に目を向けさせてくれた貴重な随筆でした。読みながら思わず「天体観測」が脳内に響き渡りました。
16	誠心和伝	前田 健志	随筆で触れられた「山中の月」に瞠目、おもわず原文の五言絶句を探しました。尺八の音色が近い将来、日中両国の潤滑剤になることでしょうか。いつか「アメイジング・グレイス」も拝聴したいです。
17	経営理念を“自分ごと”にする	辻 騎志	松下幸之助と稲盛和夫、わが国を代表する二人の名経営者。図解とともに、学びの機会をいただきました。「ショーバイ・クエスト」魔法の鉛筆のエピソードには思わず唸られました。
18	自分軸を持って！	齋藤 敬一	カナダへの旅路から始まる、メモワールの数々。その中でも特に印象的だったのが、お父様との会話のやり取りでした。結びの警句「色々なことに首を突っ込まない」も、思わずちくりとさせられます。
19	資金ゼロ、人脈無し、学歴は中卒から	樋口 陽子	お母様の教えと、鏡に向かった自分。ダーツで培われた「集中力」は並々ならぬものであったことと思います。1を2にするのは簡単、けど「0からのスタート」。0が1になることの妙味を感じました。
20	ヨーガの真髄、超越瞑想	鈴木 志津夫	朝夕2回、計40分。1日の「36分の1」を費やすこと、その継続は決して平易ではないことを読みながら感じました。もしかしたら南洲翁も、沖永良部島で実践されていたかも知れせんね。

21	継承すること・壊すこと	恵 聖	詩吟と演歌、門外漢にはその違いす存じ上げず、改めて奥の深さと難しさが随筆から伝わってきます。伝統の継承と、創造的破壊。SingingならぬSigingの普及、今後が楽しみです。
22	イタリアから愛をこめて	仁戸田 敦子	音楽とともに、旅する気分になる不思議な対談形式の随筆は2巻中随一でした。イタリアと日本の共通点も再発見することができました。日常を取り戻すための「休息」にも注目です。
23	イタリアから愛をこめて	Antonio Signorello	日本と同じく、8月15日が特別な意味を持つ(=Ferragosto)イタリアからのメッセージ。書籍では対談を通じて、ヴィットリオ・トストさんが「フェニクスのごとく」蘇りました。
24	ペットの法的地位について思うこと	渋谷 寛	「ペットは単なる「物」ではない」、動物という言葉ひとつにも色々と考えさせられました。日ごろ目にする事のない、上野の銅像の後ろ姿にも見入ってしまいました。不思議な余韻です。
25	絵本が日本を救う！	浜島 代志子	単なる読み聞かせだけでなく対話式。長年の実践ゆえに説得力を感じます。大半の絵本は道徳規範がベースになっていることから、政治家こそ絵本を読んで欲しいという論も納得です。
26	出会いを紡いで	エリザベス ターナ	運命の出会いの数々、そして様々なビジネスへの挑戦。何よりも「いいな」と思ったのは、連絡が途絶えたり、遠くなってしまった方々への気遣いでした。本を通じて、広まってほしいです。
27	わたあかつてん やあんかつてん	光永 勇	様々な形の「勝手運」、そして「松無古今色竹有上下節（まつにごこんのいろなく たけのじょうげのふしあり）」この一節に不思議な力強さを感じました。そして「梅自ずから発いて清香あり」ですね。
28	私のきもの革命！	小川 淳	「きものは、無条件に美しい」「世界でも類を見ない、美しい尊い衣装」。確固たる信念が行間から溢れるのを感じました。きもの革命、男子一生を賭けるに値する仕事だと改めて思います。
29	ふ〜てんの勝ちゃんのペット談義	勝俣 和悦	ペットの「食」から始まり、やがてはその衣食住に展開されたユニークな随筆。「ペットは飼い主の鏡」、読後にそんな言葉が思い浮かびました。コロナ禍においてもペットの存在は貴重ですね。
30	アフター・コロナの地方創生	堤 早苗	LOHASという言葉は耳にしても、改めて「健康で持続可能なライフスタイル」なのだを再認識するきっかけになりました。ある意味、わが国の「LOHAS事はじめ」そんな印象の随筆です。
31	「銀座の流儀」と「出水の掟」	茂原 由美	気風の良さが小気味よい筆致ながらも、「流儀」「掟」と硬派な魅力の「粋」な随筆。その根底にあるのが寺子屋の素読と知り感激しました。この相馬賞、素読の第一人者にもお贈りしているのです。
32	人は神になれるのか	坂本 貴光	漆黒の中に浮かび上がるものは、果たして何か。タイトルと相まって色々と考えさせられました。書中では異色の数ページですが、「敬天愛人」がヒントになるのかな、そのような評もありました。
33	自分のトリセツを活かした生き方	工藤 沙織	「自分のトリセツ」、そして「トリセツのない人生」。選者の中には不調で悩みを抱えるメンバーもあり、「この随筆に、心なしか救われた思いがした」そんなコメントも寄せられました。
34	『相互扶助』と『ネットバンキング』	小松 優穂	10歳での性格改善、そして休む間もない学生時代。「私は何に人生の時間を捧げるのか」という見出しが何よりも印象的でした。結びを飾るスナップにも、ラジオを点けている気分になりました。
35	敬天愛人を今の世に実現するため	高岸 大	様々な儒学の教えが、単なる文字としてでなくお母様の面影と重なって響いてきます。その志はいまも著者に宿り、生き続けている。現代の「家守」に注目したいと思います。
36	人生はクルーズ	岡田 靖夫	数年区切りで綴られた人生は文字どおりクルーズのようなもの。数多くの寄港の果てに、現在の航路が描かれている。そんな印象を受けました。お母様との思い出にも、思わずじわりとききました。
37	津軽さんぼみち	牧野 太紀	読みながら三味線の音がどこからともなく響いてくる、そんな不思議な読後感でした。「見出しの妙」にも感動、「その日が来るまでの練習」という一言には思わずぐざりと突き刺さりました。
38	出会いは宝物、「粋！」な人生	おりん	タイトルの「粋」のみならず、著者の名前から「凜」という字も浮かんでくる。歯切れの良さが光ります。オロナミン、アリナミン、リポビタン、そして「おりん」。カンフル剤のような読後感でした。
39	「代表的日本人」西郷隆盛	田村 重信	書名のみならず、大西郷が遺した言葉の数々に注目した点が秀逸でした。「道は一つのみ」に「雪中梅」そして「地は高く 山は深く 夜は静かに 人声は聞こえず ただ空を見つめるのみ」感無量です。
40	直達会（なおたつかい）についてなど	屋宮 直達	人が死ぬときにどう思うで亡くなるのか。しみじみ考えさせられます。初巻と続巻、のべ65名の寄稿陣による全力投球、そこには著者のみならず、一人一人を育んだ沢山の命や思いがありました。